

放課後等デイサービス やまっこクラブ 令和7年3月作成

事業者向け放課後等デイサービス自己評価表

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			埼玉県の基準である1人当たり2.47㎡に対し5.3㎡の広さを確保している。また、運動の部屋や机上活動の部屋等と部屋を区分けすることで適切に活動を行えるようスペースを確保している。
2	職員の配置数は適切であるか	○			個別での支援が必要な利用者様にも適切な支援が行えるよう基準(児童指導員2名)より多く職員数を配置している。
3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		玄関にすのこを設置する事で安全に昇降できるようにし、ドアは引き戸にする等工夫している。また、事故を未然に防ぐ観点から転倒しそうな場所や滑りそうな場所にはクッションポールやジョイントマットを設置して安全配慮に努めているが、車椅子でのご利用は難しい。
4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			事業計画会議を行い、振り返りと目標設定を行っている。
5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケートの結果を踏まえ、職員間で自己評価検討会議を行い、改善目標や工夫点等を共有している。また、改善目標に関して具体的にどのように行うかを話し合い、改善につなげている。
6	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			アンケート結果を取りまとめたものを保護者様に配布し、HPでの公表も同時に行っている。
7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	現在は第三者評価機関による評価は行っていないが、法人の規模により検討する。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			職員のスキルに応じた研修計画を作成し、参加している。また、SDSを取り入れたことで、職員が自発的に研修を受講することができた。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者様との面談の機会を設け、利用者様や保護者様の意向を聞き取り計画書を作成している。また、計画作成前にはケース会議を実施し、それぞれの職員からの意見を聞きとり、計画の作成をおこなっている。
10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化させたアセスメントツールを使用しているか	○			事業所で行う認知発達検査(太田ステージ)や保護者様から共有していただいたアセスメント結果(知能検査等)を基に支援を行っている。
11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			活動時の状態や様子等の情報を職員間で共有し、利用者様に適した活動プログラムを立案している。また、職員ごとに役割の分担を決めて活動を行っている。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			利用者様の興味・関心のある事を活動に織り交ぜながら運動遊びや自立活動を行い、業務日誌に活動の内容を記入することでいつ何をやったのかを視覚化することでプログラムが固定化しないようにしている。また、歩行訓練と交通ルール等を学ぶ日として毎週月曜日、木曜日は歩行トレーニングを行っている。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日は主にチャレンジタイムと運動遊び・自立活動を行い、休日・長期休暇では平日の活動に加えて自然学習や課外学習等を行い、実践的な社会スキルのトレーニングを行っている。また、季節ごとのイベントや家庭では経験できないような体験学習を考案し実施している。

14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者様や利用者様の意向や目標に合わせて集団活動や自立活動を組み合わせて計画の作成を行っている。
15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝礼・昼礼を実施し、その日行われる送迎・活動内容・支援内容の確認、職員の役割や留意点等の確認を行っている。
16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			支援終了後には終礼を実施し、その日に行った支援に対しての振り返りやヒヤリハット、申し送り事項等を共有している。終礼時にいない職員への共有方法は、次の日の朝礼で「学校からの申し送り」「保護者からの申し送り」「子供の様子」「着替え」「忘れ物」「ヒヤリハット」を再度共有する事とした。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録には気になった点や良かった点等を記載する事で実際の支援に活用できるようにしている。特に必要と思われる事項に関しては検討会議を実施している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			事業所内でのモニタリングの結果や相談支援員や学校と連携したモニタリング会議の結果を踏まえて保護者様と面談した際に報告し、見直しの必要性を判断している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			自立支援と日常生活の充実のための活動では集団活動と個別活動で訓練を実施している。また、季節ごとに「食事レク」や「制作レク」等を適宜組み合わせ創作活動を行っている。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			サービス担当者会議が行われる際には、事前に利用者様の様子や状態、支援の経過等を全体で会議を行い、担当職員（利用者に精通した者）が参加している。また、会議後には議事録を残すと共に職員間で共有している。
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定などの交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			学校の月間、年間、週間予定は保護者様や学校から情報を頂いている。また、下校時刻が急遽変更になった時や、下校時刻に間に合わない等の場合には連絡調整できるよう学校との体制を整えている。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			現在、医療的ケアを必要とする利用者様のご利用はないが、受け入れる際には主治医との連絡体制を整える。
23	就学前に利用していた保育園や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所などとの間で情報共有と相互理解に努めているか	○			就学前に利用していた児童発達支援事業所と情報を共有した。引き続き新一年生のご利用が決まった際には保育所等と情報を共有していく。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所などへ移行する場合、それまでの支援内容などの情報を提供する等しているか	○			卒業する際には保護者様に同意を得たうえで情報提供を行った。また、別の事業所を利用する際には情報を共有している。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修をうけているか	○			発達障害総合支援センターの主催する研修を対面又はオンラインでの研修に参加した。今後も積極的に研修へ参加し、専門機関と連携して支援の資質向上に努める。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			児童館や公共の施設（図書館等）を定期的に利用し、できる限り交流できるように努めた。交流する機会があった際には送迎時の申し送りややまっこだより等で保護者様にもお伝えできるようにする。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			寄居町は生活支援部会という名称で地域の障害福祉事業所が定期的に集まり会議を実施している。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時や連絡帳にて活動の様子や気になる事を伝え、情報を共有している。また、個別支援計画の見直しのタイミングと随時必要に応じて面談の機会を設けている。

29	保護者の対応力向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			ご家庭での様子を聞き取りながら支援のアイデアの提案やアドバイスをしている。また、保護者向け研修等のお知らせがあった際にはお伝えするようにしている。
30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に詳細をお伝えし、説明がいたらなかった場合には都度、保護者様からのお問い合わせにて対応させていただいている。また、見学・体験を通してからの契約を行うことで保護者様や利用者様が共に支援の内容を理解いただいたうえで契約をしている。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			送迎時や面談の際にお話を伺い、相談された内容は社内で共有して助言をさせていただいている。また、必要に応じて綿密に会議を行う事で支援に繋げている。
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			今年度は保護者会を野菜収穫体験という形で実施し、多くの参加があった。次年度も引き続き野菜収穫体験を行い、収穫物を変えて四季折々の収穫体験ができるように行っていく。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			契約時に苦情に関する連絡体制を説明している。また、苦情があった際には適切に対応ができる体制を整えている。
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			月に一度発行している「やまっこだより」で活動の様子や行事の予定を発信している。
35	個人情報に十分注意しているか	○			個人情報となる書類は鍵付きの書庫に保管し、写真等は契約の際に保護者様の同意を得て使用している。また、申し送り時等には個人情報に十分気を付けて、書類はシュレッターにかけるよう再度喚起した。
36	障害のある子どもや保護者と意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			保護者様にはお会いしてお話する以外にも電話やメールでやり取りが出来るように配慮している。また、利用者様に合った方法(言語や文字、絵カード等を使用)を検討してコミュニケーションをとっている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			施設の外に掲示板を設置し、地域の方々に事業所の活動を知っていただけるように工夫している。
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			各種マニュアルを策定し、契約時に保護者様にお伝えしている。また、玄関にて保管し、職員や保護者様が閲覧できるように設置している。
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			事業所で避難訓練を年2回実施し、職員と利用者様で消防署へ伺い災害時の対応について学んだ。また、事業所内では実際の状況を想定したうえで避難経路の確認、消火器の使い方を予習してから訓練を実施している。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			県主催の虐待防止研修を受講している。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束の同意書を個別に作成し、保護者様に同意をいただいている。また、やむを得ず身体拘束を行った場合には管理者に報告し、保護者様に対して身体拘束の状況等を報告する事を義務付けている。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			必要に応じて保護者様と連携を取り、食べ物は持参した物を提供するか、事前に確認した物を提供する等の対応を行っている。また、アレルギーの有無を契約時に確認し定期的に更新している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットは毎日終礼、朝礼で確認し、事案があった時には改善方法の検討等を記録に残している。